

平成29年9月1日

本荘高校東京同窓会会報

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

多感な青春期を過ごしたふるさと、母校が明日への活力に

長い数々の歴史を経て、本荘高校同窓会は今年度発足110周年を迎えることとなりました。同窓会関係者各位には、心からお祝いとお喜びを申し上げます。また、日頃から本校の教育活動には特段の御理解と御協力・御支援を賜り深く感謝申し上げます。

本荘中学校が創立された1902年(明治35年)の5年後に第一回卒業式が挙行され、その1907年(明治40年)8月には、早くも本荘中学校同窓会が発足しました。旧制中学では県内で最も古い同窓会の誕生です。その後1936年(昭和11年)5月、新橋駅前の蔵前工業会館(現東京工業大学同窓会館)で同窓会東京支部創設^{はつかいしき}の発会式が挙行され、現在の東京同窓会へとつながっています。

現在でも本校第一体育館正面高くに掲げられた扁額^{へんがく}「鳳山児水」は、本高生の日々の様々な活動をおおらかに、静かに、かつあたたかく見守り続けています。1953年(昭和28年)、当時日本体育協会会長の東^{あずまりようたろう}龍太郎氏によって揮毫^{きごう}されたものです。東氏は、東京帝国大学医学部時代ボート競技選手として活躍、その後東京帝国大学教授、東京都知事、日本赤十字社社長等を歴任した方です。

新緑の美しい五月のある夕暮れ、私は本荘公園の一角にひっそりと聳えるように建つ「戊辰勤王碑」(大正9年除幕)の前にたたずんでいました。その立派な石碑に刻み込まれた銘の中に、確かに「児水之南 鳳山之北」の句があります。伝説の瑞兆^{ずいちよう}鳳凰の雄、^{おおとり}鳳が羽ばたくような優雅な山容の鳥海山を「鳳山」、その母なる鳳山を源流とするいくつもの溪流、清流によって育まれる子吉川を「児水」、そして「児水之南 鳳山之北」とは、鎮魂のためにこの碑が建立された本荘藩跡地、ここ鶴舞(本荘)公園なのかと、一瞬深い感慨にとらわれました。

「鳳山児水」は、鳥海山と子吉川に包まれるようにたたずむ本荘公園、鳥海山と子吉川に象徴されるここ由利本荘市、そして「姿雄々しき鳥海山」、「光も清き子吉川」と校歌1番、2番で謳歌する本荘高校にとっては、とりわけ深い縁^{えにし}のある言葉だったのです。「この石碑に発するこの表現は、今でも多くの人たちに愛され使われています」と、市制施行五十周年記念誌『ふるさと散歩』には記されています。

会員の皆様には人生の折々に触れ、鳥海山や子吉川に象徴される自然豊かなふるさとと由利本荘一帯の風景と、多感な青春期を過ごした高校時代が懐かしくも、鮮やかに思い出されることがおありかと存じます。

今後とも将来、社会に貢献する有為な人材の育成と母校の発展に職員一同努めていく所存ですので、これまでと変わらない御支援と御協力をお願い申し上げます。